

中部IT経営力大賞2014 優秀賞受賞

当社の信条「創造 成長 感謝」

# 株式会社みづほ合成工業所



## 後藤 敏公 氏

株式会社みづほ合成工業所 代表取締役社長

### 当社の信条

社名の「みづほ」とは稲穂のことで、創業の父が「実るほど頭を垂れる稲穂かな」の故事に習い謙虚さを忘れない企業精神を社名にした。私は、この精神を守り全社員が一丸となって事業に取り組むよう「創造 成長 感謝」を信条にして日々実践している。

### 社長の思い

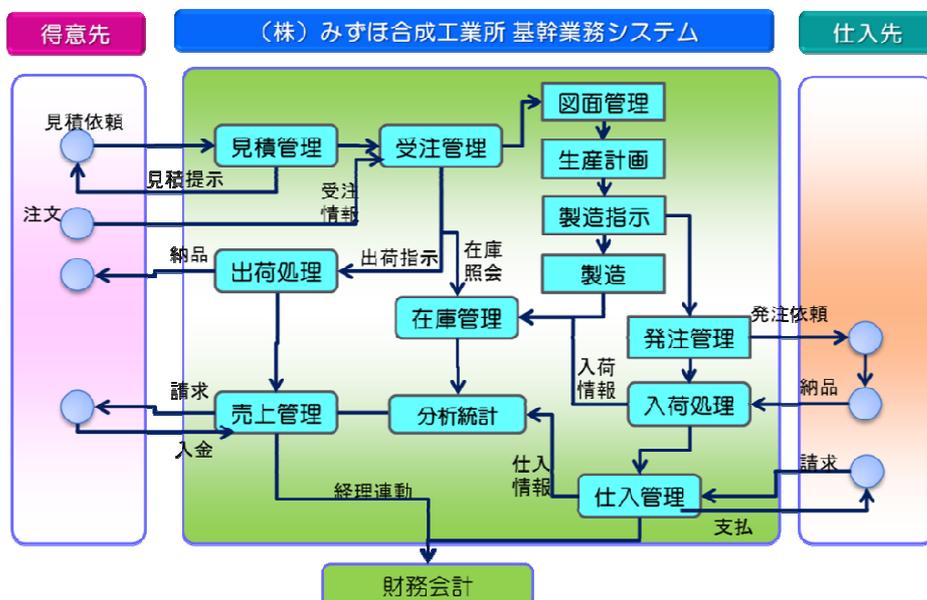
社員が、常にチャレンジ精神を発揮して商品開発をするように、小さな企業でありながら開発部門をつくりCAD設計者を育成し、2000年には大型3Dプリンターを導入した。その結果、得意先のアイデアを素早く形にして提案できるようになり、試作開発は当社の得意分野になった。他にもユニークな商品開発をしているが、感性豊かな心の持ち主ほど柔軟な発想で開発ができると信じ、社員に芸術を推奨している。かくいう私も現役ロックミュージシャンである。

## ■IT導入の背景と目的

- ◆ プラスチック成型加工業であるが、多品種(1万8千品種)小ロット商品を扱っており、原材料も多岐にわたるため正確で迅速な見積積算、設計、試作、生産から納期管理までの一連の作業を人手で実施するには限界がある。
- ◆ 商品は廉価な量販品から、高付加価値の複合精密加工品まで幅広くあり、個々の製造原価をしっかりと押さえ利益確保をすることが経営の根底。
- ◆ 社員の「ものづくり意欲」を醸成し、当社のオリジナル商品、独創的な商品開発を継続していくために、部門別管理、個別採算方式を採用入れて原価意識、利益追求を全社員が周知して日々実践することが肝要。
- ◆ 人づくりを基盤にした経営を実践するためには、一人一人が経営者の意識を持って自律化し、組織目標に向かって活動をしていく必要があり、そのための管理支援としてIT活用は必須。
- ◆ 社員が部門セクショナリズムに陥らず、全社一丸となった活動をしてもらうための情報共有としてのIT活用。

## ■IT化の概要

- 当社のIT活用の歴史は古く、1990年初頭よりオフコンを使ってエクセルで在庫管理を実施している。社内LANは手作りで敷設した事もあって、自作ITシステムが徐々に拡充してきたのが特徴と言える。
- 現在でもエクセルベースは変わりなく右図のように営業支援～部材調達までエクセル連携をして運用している。
- 当社のITシステムの特徴  
部門リーダーに職務の権限移譲をし、経営情報、業績管理、社内の生産管理は全てオープンである。部門リーダーは、ここにある情報を駆使して生産管理、原価管理、収益管理等を実施している。



## ■IT導入の効果

### ① <<直接効果:生産管理の可視化が実現>>

受注から出荷までの生産工程がIT化されており、進捗状況も日々、データ入力をしているので、担当者のみでなくリーダー、管理者、経営者まで全製造工程の日々の流れを把握することができる。工程における進捗管理として、遅延状況、不具合、社員毎の負荷を把握して的確な対応ができ生産性向上に大きく寄与できている。

### ② <<直接効果:経営のスピードアップ>>

営業見積段階より、IT活用しており受注後の設計、試作・・・各工程の進捗の可視化が図られている。この成果として、売上管理、仕入管理等の精度が向上すると共に、リスクに対する予知管理ができるようになり納期遅延ゼロを達成した。

経営視点からは、最終的な経理経費データと合わせ 株主総会、役員会議での経営計画書、資金運用表作成の短縮と数値精度が飛躍的に向上している。

### ③ <<直接効果:原価低減>>

部門を越えた情報共有、在庫確認ができるため部材調達において部門を越えた共同仕入、購入価格の事前査定などができるために、余剰在庫の圧縮、妥当な仕入価格、ムダな部材購入等の原価低減が図れている。

また、全員に原価数値を見せることにより、原価意識の高揚と共にムダ取りなどの自主的な改善活動に結びついている。

### ④ <<直接効果:ペーパーレス化>>

社内の文書は印刷せずPC画面でおこない会議においても紙資料の配布はしていない。回覧もPC上で掲示している。もちろん社長報告もメール添付で実施している。

全社員への徹底を目的にした通路掲示版や、取引先等の社外向け資料の印刷は別にして、総印刷枚数は従前に比べて1000枚/月以上の削減はできている。

### ⑤ <<間接効果:人材育成の視点>>

経営情報[損益管理表、経営計画表、部門別損益表・・・]や、業務実績、今時点における工場の生産情報など全てオープンにして社員に閲覧させ、リーダーには、その実態把握と不具合分析、判断を任せることにより自主的な管理ができるシカケとしてのIT活用をしている。

結果として自律した人材育成に大いに役立ち、年度目標の説明においては、具体的、定量的な表現での報告ができるようになり権限委譲と合わせてIT活用の効果と捉えている。

## ITコーディネータから一言

株式会社名古屋コンサル21 代表取締役 ITコーディネータ 高間 正俊 氏  
<http://www.nc21.jp/> info@nc21.jp

株式会社みづほ合成工業所におかれては、企業風土として独立性、独創性を強く感じる企業である。時代を先取りして14年前から大型3Dプリンター(積層造形装置)を導入し試作品の設計、製造、造形物の単品注文に応じるなど、後藤社長の積極進取な気概を社員も受け継ぎ、新商品の開発や商品改良に余念がない。商品開発も提案型受注が多く、必然的に試作品を含めて品種の増大をきたしている。このような社内環境から自然発生的にITを活用してこられたようで、必要部門が個々に活用していたPCを全社統合され情報共有(DB一元化)するなど、社員の意疎疎通の手段としてITが活用&成長しており、今後も情報の一元管理を基本にしたIT活用が進展していくものと期待している。

## 会社概要

所在地: 〒454-0813 愛知県名古屋市中川区乗越町2-41

社名 : 株式会社みづほ合成工業所 TEL : 052-361-8366  
代表者名 : 後藤 敏公 FAX : 052-361-8360  
設立 : 1956年11月1日 URL : <http://www.mizuho-go.co.jp>  
資本金 : 1,800万円  
売上高 : 10億円(2013年度)  
従業員数 : 45人(2013年度)  
事業内容 : プラスチック部品、製品の設計、試作、量産、海外調達  
その周辺の部品(鉄、非鉄金属、電線等)の設計、  
仕入れ、調達

